

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。〇〇語(母語)でも書いたことがありますか。
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものをどれくらい書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題を二つ(「学校紹介」「日本の〇〇」)提示して、子どもに選ばせる。



どちらを書きますか。好きな方を選んでください。

- ・質問があれば答える。(外の国とはどこかと聞かれたら、子どもに応じて適宜設定して応える。母国での学習経験がある子どもに対しては子どもの母国を答えとしてよい。)
- ・「学校紹介」→p88-89へ 「日本の〇〇」→以下へ続く

③ 課題文を読ませ、書くことがわかったかどうか確認する。



書くことがわかりましたか。
では書いてください。時間は□□までです。いいですか。

④ 原稿用紙の使い方を確認し、書く前にメモを作ることを勧める。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。
書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例)〈課題について詳しく話し合う〉



ではまず書くことのメモを作りましょう。
日本の何について書きますか。
日本の〇〇と外国(〇〇)の〇〇で、違うのはどこでしょうか。

- ・何も出てこなければ、「(トピックに学校を選んだ場合は)教室の様子は? 一番面白い行事は?」など、手がかりを与えて考えさせる。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書きますか。
それから、何を書きますか。
他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。
最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかったり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、答えを与えるのではなく、「一番知らせたいことは何ですか」「面白いところは何ですか」などの声かけを繰り返して答えを引き出す。

書いたあとで ...

① 作文を提出させ、ねぎらう。

😊 がんばってたくさん書きましたね。
では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。

😊 では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。
★書き直させる必要はない。

③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。

😊 書くとき、一番考えたのはどこですか。
読んだ人が一番面白いと思うのはどこだと思いますか。
読んだ人は、日本の○○のことをどう思うと思いますか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる

😊 書いた後で読み返しましたか。

④ 振り返りを行う。

😊 よくがんばりました。これを読んだら日本の○○のことや、○○との違いがよくわかります。
とても上手に書けました。良かったです。
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。
対話でたくさん話せた場合は「話も上手でした。」のようにほめるとよい。

😊 書くのは大変でしたか？楽しかったですか？

😊 今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょね。

メモ:

「学校紹介」と同じく、情報を整理して必要なことを抜き出し、順序や構成を考えて書くことが要求される。母国で学校に行ったことがある子どもの場合には、学校の比較にぜひ取り組ませたい。無論、学校以外のトピックでもかまわない。
日本生まれの子どもの場合は、人から聞いたことや本で読んだことなどの比較でよい。